YOKOGAWA人の企業行動を支える行動規範とリスクマネジメント

YOKOGAWA人には、確かな倫理観と責任感に基づいて、いかなる局面でも責任ある行動をとることが求められています。そのためYOKOGAWAグループでは、グループ全従業員の規範遵守活動と、リスクマネジメント活動に注力しています。

YOKOGAWAグループ企業行動規範

「YOKOGAWA人は良き市民であり　勇気をもった開拓者であれ。」横河電機の企業理念はそう呼びかけています。この理念を実践してゆくため、「YOKOGAWAグループ企業行動規範」を改定するとともに、YOKOGAWAグループ全従業員が携帯できるように小冊子にまとめました。この行動規範は、基本方針、基本姿勢、行動指針からなり、YOKOGAWA人の行動針路を示す羅針盤となっています。

また、「企業不祥事を未然に防ぐためには、YOKOGAWAグループ全従業員が一人ひとり企業倫理意識を高める必要がある」と考え、企業倫理徹底のための諸活動の推進、問題が起きたときの是正処置等を主務とした「企業倫理委員会」を設けています。

YOKOGAWAグループ企業行動規範

「企業倫理週間」での成果取り組み

企業倫理委員会は2003年度の活動の一つとして、YOKOGAWAグループでは初の試みとなる「企業倫理週間」として、下記の活動を展開しました。期間は2004年2月16日～27日の2週間で、YOKOGAWAグループ全従業員を対象としました。

(1) 企業倫理講演会の開催

YOKOGAWAグループ内のイントラネットで本企画をPRし、立教大学大学院教授（経営倫理実践研究センター主任研究員）を講師とする講演会を開催しました。従業員の身辺で起きる不正やトラブルの対処法を、「流されず・見逃さず」というキーワードに集約、124名が参加しました。

(2) 企業倫理意識アンケートの実施

無作為抽出した300名にアンケートを実施、回答は無記名方式・郵送で回収、中間集計結果をイントラネット上で公開しました。設問は、行動規範の理解、遵法意識、社内通報制度、社内の不正に対する倫理意識、自分の行動に対する倫理意識、社会貢献の6項目、各5問に及びました。76%に当たる229名から回答がありました。

(3)「エシックス・カード」の配布

名刺サイズのエシックス・カードを常時携帯できるようYOKOGAWAグループ全従業員に配布しました。判断に迷ったときに役立つ5つの行動チェックポイントと企業倫理相談窓口の案内を掲載してあります。

(4) 経営監査本部のホームページを改善

イントラネット上のホームページを見やすく改善しました。また行動規範に関するクイズや1日1問ずつ企業倫理週間の10日間で計10問のケーススタディ、各自の行動を自己点検できるプログラムも提供しました。その結果、10日間に約1万件のアクセスがありました。

リスクマネジメント

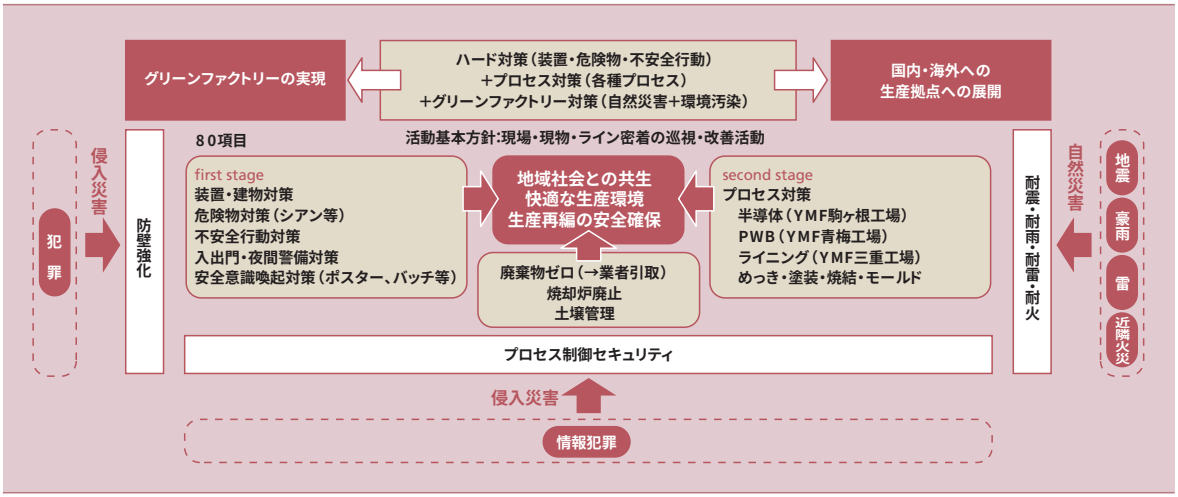
現代社会は国内外を問わず様々なリスクを抱えています。またリスクは常に潜在していて、いつ、どこで顕在化するか予測不能なところに、リスク管理の難しさがあると言えます。

2001年10月、経営に重大な影響を及ぼす恐れがある事実、事件、災害、事故などの発生に備えて社長を本部長とする危機管理本部を設立し、危機発生時にはその事務局、平時においては事故・事件などの未然防止のためのリスク管理の役割を担う部署として「危機管理室」を設けました。

2003年度は、生産事業本部に「災害防止対策本部」を設置して、国内外すべての生産拠点を巡視し、災害防止に向けた安全対策を強化しました。なおその重点方針は次の通りです。

1)「現場・現物・ライン密着」で、高エネルギー設備・危険物・人間にも内在する「危険源の実態」を把握し、機械の誤作動・人の誤動作に対する安全対策を実施
2)「リスク見積マトリックス手法」により危険度評価を定量化し、さらに「リスクアセスメント」により「安全方策と残存リスク」を明確化し、対策の一元化を実施
3)装置導入・使用の安全管理を「目で見る危険源表示＆目で見る点検管理」をもとに強化
4)目標・情報・成果の共有によるプロジェクト方式で実施し、国内再編・YCS(横河電機(蘇州)有限公司)立ち上げプロジェクトとも連携し、海外を含む生産拠点全体で「対策の一元化」を図る。

災害防止対策活動とグリーンファクトリーへの展開



INTERVIEW
真の災害防止策は安全行動文化の確立と定着化

生産事業本部 先行生産技術担当
兼 災害防止対策本部 **村松 康彦** 本部長

災害防止対策本部は、2003年10月から2004年3月にかけて、国内拠点はもとより海外拠点のすべて(韓国、中国、シンガポール、米国、オランダ、ドイツ)を巡視し、各拠点長と実務責任者および生産技術の専門家と一体となった活動を進めました。巡視のポイントは、人命と火災に関わるハード系の安全対策がきちんとなされているか、プロセス系はどうか、拠点長による安全パトロールは毎日行われているか、地震その他の自然災害まで含めて対策実施マニュアルが整備されているか、危険物や有害物質の管理は適正か、情報面のセキュリティはどうか、消火栓を含む安全設備と緊急時の対応はどうか、等々です。しかし災害防止対策の鍵を握っているのは、“ 隠れた不安全の種を一人ひとりの手で摘み取ろう ”を基本とする安全行動文化の確立と定着化であると考えています。

顧客満足を目指した品質マネジメントシステムを展開

YOKOGAWAグループにおける品質マネジメントシステム（QMS）は、新長期経営構想「VISION-21＆ACTION-21」が掲げる「経営品質向上活動」のもと、「顧客満足の追求」を目標にして展開しています。

「お客様の満足」がゴール

ISO9001の2000年版は、企業活動のすべてが、「顧客満足」を最終目的とすべきことを明示しています。YOKOGAWAグループで展開しているQMSは、EMS同様、PDCAを回してスパイラルアップしていく改善活動です。

横河電機の品質活動は、経営管理本部品質保証センター品質保証部が策定する年度ごとの「全社品質計画（方針・目標・施策）」を受け、各事業本部がそれぞれ「自分たちのお客様は誰か」を見きわめて「品質計画」を作成し、それを各部署の年間品証活動に展開する形をとっています。そしてすべての組織における品証活動の進捗状況は、各組織の品証責任者が出席する月に1度の「全社QA会議」で統括し、個々の施策が「顧客満足」を実現しつつあるかどうかチェックしています。2003年度の「全社品質方針」が重点施策に掲げたのは、

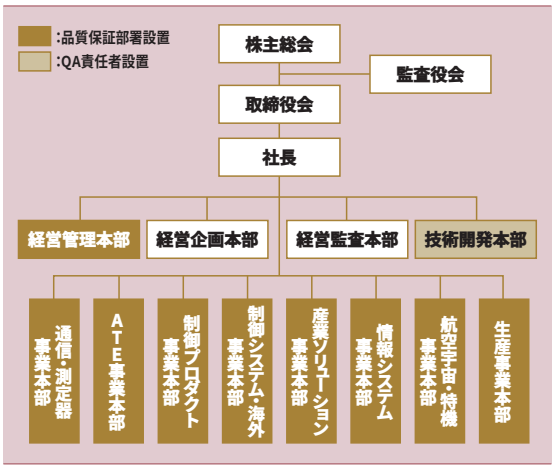
①顧客満足の向上
②生産体制の再編を「品質第一」で実現
③潜在リスクの発生の未然防止

でした。2004年度も全社品質方針に引き継ぎ展開していきます。

不眠不休のレスポンスセンター

YOKOGAWAグループ全てのお客様窓口となり、保守サービスを提供しているのが「YOKOGAWAレスポンスセンター」です。このセンターは国内 115カ所、海外112カ所のサービス拠点の頂点に位置しており、24時間×365日対応となっています。現在は、受付の女性4名と専門技術にたけた技術者が在籍しています。2003年度のコール応答数の実績は問い合わせ、相談も含め1ヶ月およそ約5000件でした。

横河電機の品質保証組織図（2003年度）



INTERVIEW
コール対応の秘訣は沈着冷静な態度

ソリューション事業部 ライフサイクルソリューションサービスセンター
レスポンスセンター コール受付担当 宮岡 淳子

YOKOGAWAグループがお客様に提供しているのは、自動化された生産設備そのものや、そこに組み込まれて重要な働きをする製品です。故障が発生するとお客様の生産体制そのものに影響が出てしまいます。そこでこうしたトラブルを未然に防止すること、故障したときの迅速な復旧活動を支援することが当センターの最優先課題です。現在、お客様からの電話を最初に受け付けるコール対応業務は、私を含めて4名の女性が行っています。お客様はなんらかの問題を抱えていらっしゃるので急がれた口調で電話が掛かることが多々あります。しかし私たちがそのペースに巻き込まれたのでは、障害の内容を正確に把握することができません。この業務では早くトラブルを復旧したいお客様の気持ちを十分配慮し、沈着冷静な態度で対応することが最善の対処方法だと思っています。

多様なプログラムで 従業員の成長と働きやすさを支援

**従業員の自分を高めたいと思う意欲を支援するため、
また安心して働くことのできる環境を整えるために、
多様な人財育成、雇用機会創出、安全管理を展開しています。**

従業員育成

従業員一人ひとりの意識高揚と実行が不可欠との認識から、人財育成方針に基づいて、ビジネス基礎力の育成や、自己実現を目指すプログラムを展開しています。

環境教育においては、毎年YOKOGAWAグループ内各部門に環境報告書を配布し教育啓蒙活動を行っています。YMF甲府工場では、社外の専門家による講演会「食と環境」を開催しました。

雇用対策

(1) 障害者雇用

人事運営の基本的な考え方の一つとして「年齢、性別、学歴、国籍、障害の有無などの属性にかかわらず、平等な機会の提供と評価を実施する」真の平等を標榜しています。

2003年度末において法規により設定された雇用率1.8%を継続的に達成しています。これからも障害者の方の採用を行っていきたいと考えています。

(2) 定年退職者の就業支援

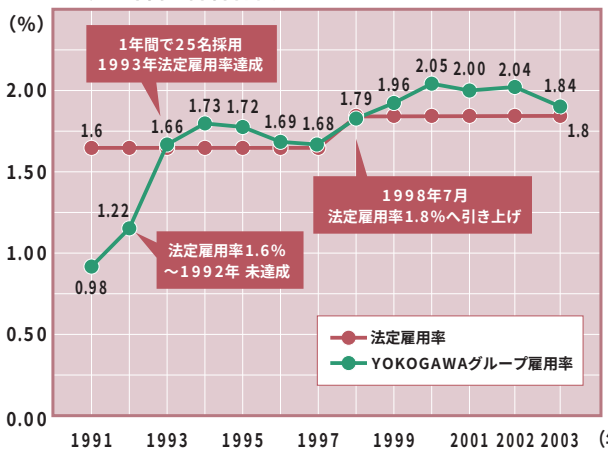
60歳の定年退職を迎えた方でも、気力、体力が充実し、引き続き働く意欲のある方にはYOKOGAWAグループの人材会社によりYOKOGAWAグループ内外での就業機会を提供し、定年後の就業を支援しています。

労働安全衛生

毎年開催する安全委員会では、労使双方で最新の経営情報を共有化するとともに、経営や生産現場に関する課題や問題点の共有化と課題解決に向けた議論を展開しています。特に生産現場においては、労働安全衛生に関し万全の体制を整備することは言うまでもありません。各職場の業績評価項目の一つと位置付け活動を展開しています。なお2003年の労働災害発生件数は下図の通りです。

環境教育風景

過去13年間の障害者雇用



横河電機　過去4年間の業務上の災害動向

年	2000	2001	2002	2003
年間平均労働者数(人)	6,346	6,346	5,750	5,625
延実労働時間数(H)	13,075,247	12,691,373	11,263,598	11,179,692
休業4日以上(人)	1	2	2	1
休業1～3日(人)	1	2	1	3
小計休業者数(人)	2	4	3	4
不休(人)	17	17	12	15
合計	19	21	15	19
延休業日数(日)	31	158	85	43
労働損失日数(日)	25.5	129.9	70.7	35.3
度数率(全国平均1.77)(人)	0.15	0.32	0.27	0.36
強度率(全国平均0.12)(日)	0.002	0.010	0.006	0.003

度数率 = 休業労働者数 / 延実労働時間数 ×1,000,000H　　強度率 = 労働損失日数 / 延実労働時間数 ×1,000H

従業員とその家族が積極的に社会との交流を展開

**企業における社会的責任の観点から、
YOKOGAWAグループでは、従業員さらにはその家族が、
積極的に地域社会や住民との交流を図っています。**

社会貢献活動

メセナ活動

アジア諸国への自社製品寄贈や人材育成基金設立など地道な活動を続けています。2003年度は東京国立博物館で開催された建長寺創建750年記念特別展「鎌倉－禅の源流」に協賛しました。

プロジェクトHOPEジャパン

国際医療支援と企業の国際貢献文化の構築をミッションとしている認定NPO法人プロジェクトHOPEジャパンを支援しています。2003年度はAIDS予防教育、小児心臓手術、母子保健衛生などを実施しました。

日本赤十字社より表彰される

横河電機は1966年12月から日本赤十字社赤十字血液センターの献血事業推進に協力しており、その功績を認められ、平成15年度東京都赤十字大会で、銀色有功章を受賞しました。

カンボジアに学校建設

1960年に入社した従業員の同期会「横河60の会」が、定年記念にメンバーの多くの賛同を得て、カンボジアの村に学校を寄付しました。2004年1月に有志16名で初めて学校を訪問し、歓迎を受けました。

カンボジアでの「横河60の会」歓迎式

地域との交流

YOKOGAWAグループでは、地域との交流を図るため、様々なイベントの実施や参加をしています。2003年も本社・工場やYMF小峰工場など、各地で従業員、地域の方々、お客様の参加する夏まつりを開催しました。また、各地で開催されるクリーンキャンペーンに積極的に参加しています。

武蔵野市イベント「玉川上水の歴史を歩こう」

2003年12月6日、玉川上水誕生350周年を記念して、市民が玉川上水を散策しながら清掃する武蔵野市主催イベントが行われました。横河電機はこの行事の後援企業として事前のPR活動から当日の運営までサポートしました。

当日の清掃で集まったごみはトラック1台分にもなりました。散策のゴールである西久保公園ではブルーベリーの苗木を手にして散会しました。

今回のイベントを企画され、また武蔵野市役所で市の緑化を推進する山田修さんからも「各地で350周年を記念する行事があったようですが、その中でも約600名もの参加者を集めたこのイベントは、大成功だったと言えると思います。事前のPR活動から当日の運営までサポートして下さった、横河電機の皆様には心から感謝しています。」とのコメントをお寄せいただきました。

「玉川上水の歴史を歩こう」イベント

環境経営報告書を中心に多様なコミュニケーション活動を展開

ステークホルダーとの関係をより確かなものにするために、環境経営報告書を作成しています。また環境調和型製品などアピールするために、展示会などにも積極的に参加しています。

環境報告活動

長期経営構想のもと、環境経営の取り組みをより強化・健全にしていくため、1999年以来環境活動に関するレポートをまとめて、お客様や従業員など様々なステークホルダーの方々へ報告しています。

今年度は1999年以来発行してきた「環境報告書」を改め、「環境経営報告書」としました。環境経営の考え方、さらには全従業員、全事業領域で取り組んでいる環境活動が皆様にお伝えできればと考えております。作成にあたっては、本年度も外部の専門スタッフの協力を得てまとめました。

ホームページにおいても「環境保全活動」のコーナを設けてYOKOGAWAグループの「環境」への取り組みに関して情報発信をしています。なお英文版環境報告書については、グローバルホームページに掲載しています。

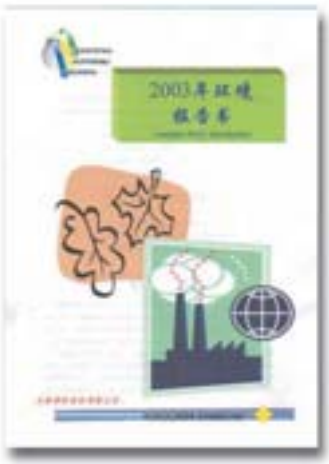
また、海外子会社の重慶横河川儀有限公司や蘇州横河電表有限公司、上海横河電機有限公司においては、それぞれのサイトレポートを作成し、その地域とのコミュニケーションを図っています。

環境保全活動のWebアドレス（日本語）：

http://www.yokogawa.co.jp/Environment/

環境保全活動のWebアドレス（英語）：

http://www.yokogawa.com/environment/



上海横河電機有限公司の環境レポート表紙写真

2003年版環境報告書に対する反応

環境報告書を従業員に対する環境教育の教材として活用しています。2003年版環境報告書に対しては従業員および社外の方から下記のようなアンケート結果を得ました（回答数418件、5点満点中の得点）。

- 内容はわかりやすいですか ……3.8点
- 知りたいことが十分に記載されていますか ……3.9点
- 当グループの環境保全活動の評価は……4.2点

また、記載項目に対して関心度の高いトップ5項目は以下のようになりました。

1.省エネルギー・省資源　2.土壌浄化　3.ゼロエミッション
4.従業員との関わり　5.社会との関わり

社外の方からは以下のようなコメントが自由回答で寄せられました。

- 環境コミュニケーションの進め方および設計・製造への取り組み方が大変参考になった。
- 社会全体における問題提起をしていたことが充分読み取れてよかった。
- 文章の簡略化や段落付け、表や図などで工夫して欲しい。
- 従業員の環境に対する考えが知りたい。

2004年版の環境経営報告書作成に際して、これらの結果やご意見を参考にいたしました。今後もさらに改善を重ねていきます。

その他のコミュニケーション活動

環境調和型製品や環境ソリューション関連製品をアメリカ「ISA EXPO 2003」など様々な展示会に出展しお客様にアピールしました。また武蔵野市環境市民会議や、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の環境・安全委員会等、人材交流を積極的に展開しました。